

見創見 Tuesday

(1) おじいさんの指
僕は幼稚園児の頃、おじいさんの右手の人さし指を強くかんだ。あまりに強く思いつきかんだため、人さし指が爪の根元あたりで30度ほど曲がってしまった。

30度というのは結構な曲がり方で、爪は横に向けて生えているように見える。さぞ爪も切りにくかっただろう。そんな指を見るたびに、僕の心は強く痛んだ。おじいさんが何かを指さすと、いった

いどこを指し示そうとしてい
るのかわからず混乱した。揚
げ句の果てには「左手で指さ
せばいいのに」とすら思った。
僕自身がおじいさんの人さし
指を曲げてしまった張本人な
のに、僕はひねくれた恥知ら
ずだったのだ。

でも実際のところ、僕がか
んで指が曲がったという話
は、おじいさんの嘘だったの
ではないかと思っている。お
じいさんはこの話をするたび
にニヤニヤしていたし、二人
っきりの時しかこの話をして
来なかった。おおかた当時働
いていた鉄工所での事故か、
戦争中のケガではないかと思
う。

この話のポイントは、40代
も半ばを過ぎた僕が、いまだ
にこの話の真偽を確かめてい
ない理由にある。
話の真偽は、僕が死んでか
ら確かめたいのだ。せつかく

彼岸を間近にして



玉樹真一郎

八戸学院大
地域経営学部特任教授

たまき・しんいちろう
1977年、八戸市生まれ。八
戸高、東京工業大、北陸先端
科学技術大学院大を卒業。
2001年、任天堂に就職後、プ
ランナーとしてゲーム機社
「Wii」を企画担当。退社
後にUターンして企画コン
サルティング業を営む。著
書に『「ついやってしまう」
体験のつくりかた』など。

祖父母の思い出かみしめる

だから本人に直接確かめた
い。嘘だったんでしょ？っ
て笑いながら手を取りたい。
ああ、楽しんだ。死後の楽
しみがあると、今生の生活に
もハリが出る。

天国でもおじいさんの指
は曲がっているのだろうか？
(2) おばあさんとパーカー
ー
内弁慶をこじらせていた小
学校5年生ぐらいの僕は、恐
ろしい剣幕でおばあさんに食

ってかかった。
「パーカーがほしいー」
同級生が着ているフード付
きの服がほしくて仕方がな
かったのだ。ちなみに当時はフ
ード」という言葉すら知らな
いので、帽子と呼んでいた。
それまで服がほしいなんて
一切いかなかった僕も、いよ
いよ思春期にさしかかり、そ
ういう事を考えたようだ。

僕はすごく喜んで、毎日着た。
今はどこに行ったかわからな
いけど、当時は本当にうれし
かった。心底ほれ込んで、本
当に毎日着た。
この話が切なくなるのは、
そのパーカーが3万5千円も
したという話を聞いた後のこ
とだった。

おばあさんはパーカーなる
ものをそもそも知らなかった
から、どこかの服屋の店員が
勧めるままに高価なパーカー
を買ってしまったのだった。
僕は世の中を恨んだし、パ
ーカーを恨んだ。どうして僕
の周りでは貧乏風がいつも吹
いているのだろうか？僕は自
分自身の運命を恨んだ。
けれど、高価な商品をつか
まされてしまったおばあさん
のことは、まったく恨んでい
ない。おばあさんの周りに吹
いている貧乏風は、パーカー
のフードですく集めて、す
べて僕が引き受けようと思
誓っている。
今となっては、仏壇に向か
って「あの時は本当にごめん
ね」と言うしかないけれど。
(3) 新型コロナや戦争
最近、極めてむずかしい問
題が多い。無力だと思
う。そんな時は、心の中でおじ
いさん、おばあさんと話すこ
とにしている。
ふたりなら、今の世の中を
どんな風に見るんだろう。不
謹慎かもしれないが、ふたり
ならどんな冗談を言ってくれ
るのか、すごく興味がある。
時代の荒波を越えて、先人
たちが生き延びてくれたから
こそ、いま僕たちは生きてい
る。こんな時代だからこそ、
先人たちの偉大さをあらため
てかみしめる。
おづけば春も近づき、もう
すぐお彼岸。墓所にもおだや
かな日が差すでしょう。

家は貧乏だったから、自由
なお金は無い。その時は「困
ったねえ」と笑うばかりのお
ばあさんだったけれど、1週
間ほどたったある日、ニコニ
コしながら立派な紙袋を差し
出してきた。
パーカーだった。深く濃い
青に、白いヒモのパーカー。

おばあさんはパーカーなる
ものをそもそも知らなかった
から、どこかの服屋の店員が
勧めるままに高価なパーカー
を買ってしまったのだった。
僕は世の中を恨んだし、パ
ーカーを恨んだ。どうして僕
の周りでは貧乏風がいつも吹
いているのだろうか？僕は自
分自身の運命を恨んだ。
けれど、高価な商品をつか
まされてしまったおばあさん
のことは、まったく恨んでい
ない。おばあさんの周りに吹
いている貧乏風は、パーカー
のフードですく集めて、す
べて僕が引き受けようと思
誓っている。
今となっては、仏壇に向か
って「あの時は本当にごめん
ね」と言うしかないけれど。
(3) 新型コロナや戦争
最近、極めてむずかしい問
題が多い。無力だと思
う。そんな時は、心の中でおじ
いさん、おばあさんと話すこ
とにしている。
ふたりなら、今の世の中を
どんな風に見るんだろう。不
謹慎かもしれないが、ふたり
ならどんな冗談を言ってくれ
るのか、すごく興味がある。
時代の荒波を越えて、先人
たちが生き延びてくれたから
こそ、いま僕たちは生きてい
る。こんな時代だからこそ、
先人たちの偉大さをあらため
てかみしめる。
おづけば春も近づき、もう
すぐお彼岸。墓所にもおだや
かな日が差すでしょう。